

全国統一学力テストから 子供たちに育てるべき国語力を分析する。

齊藤 振一郎（札幌市立元町北小学校 教諭）

今年度、初めて全国統一学力テストを体験した。そのテストに学級の子供たちが取り組んでいる姿を見ると、自分の力不足を感じざるを得なかった。問題を見ただけで諦めている子、解答用紙の大半が白いままの子、テストの時間が半分以上残っているのに顔を伏せている子…惨憺たる状況だったからだ。

テスト後、問題用紙をもらって自分でもやってみた。その結果、幾つか見えてきた事柄がある。それを今回は、算数のB問題から1つ取り上げて検討していきたい。取り上げるのは次の問題である。

1

ゆりえさんたちは、遊園地に行く計画を立てています。

(1) ゆりえさんとひさこさんは、乗り物券を1人8枚ずつ買う予定です。
この遊園地の乗り物と、乗るために必要な乗り物券の枚数は、次の表のとおりです。

乗り物と乗り物券の枚数	
乗り物	乗り物券の枚数(枚)
ジェットコースター	5
観覧車	4
ボート	3
ゴーカート	2
コーヒーカップ	1
メリーゴーランド	1

2人は、それぞれ下の乗り物に乗る計画を立てました。

ゆりえ 観覧車 メリーゴーランド	ひさこ ジェットコースター コーヒーカップ
------------------------	-----------------------------

2人は、まだ乗り物券が残るので、ほかに乗る乗り物を下のようを考えました。

- ・残りの乗り物券で乗る。
- ・2人とも選んでいない乗り物に乗る。
- ・2人で同じ乗り物に乗る。

2人は、どの乗り物に乗ることができますか。答えを書きましょう。

小算B-1

(2) としおさんは、乗り物に乗る計画を立てたところ、乗り物券が15枚必要になることがわかりました。

乗り物券と乗り放題券（フリーパス）の料金は、下の表のとおりです。

料金表		
乗り物券		乗り放題券
1枚券 100円	11枚つづり 1000円	1500円

次の1から3までの券の買い方のうち、乗り物券15枚分の料金がいちばん安くなるのはどれですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号の買い方がいちばん安くなるのを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1 | 枚券を15枚買う。
- 2 | 1枚つづりの乗り物券を1つと、1枚券を4枚買う。
- 3 | 乗り放題券を買う。

小算B-2

この問題1つやっただけで、自分の学級の子供たちには難しいだろうと予想がついた。何故なら、この問題を解くためには、極めて大雑把に言って3つの段階を経なくてはならないからだ。

まず、文章や図表を読んで問題となっている場面の状況をつかまなくてはならない。ここで問題となるのが、文章と図表が混ざっているという点だ。

一般に、国語の授業では文章を読解する授業が行われ、算数では図表を読解する授業が行われる事が多い。だから、それぞれで出てくるなら何とか読解できる子は少なくないだろう。

しかし、この問題では文章と図表が混ざっている。そのため、パッと見ただけで難しそう…と言うよりは、面倒くさそうな印象を受ける子が多いと予想される。難しそうなお事や面倒なお事を忌避する傾向の強い私の学級の子供たち、つまり最近の子供たちなら、この

「見た目」だけで意欲が無くなり、「面倒くさい」「やりたくない」「もう無理だ」と感じてしまう事だろう。

仮に、問題場面の状況を理解できたとする。今回この問題で扱われている状況、つまり子供同士で遊びに行くという状況は、かなりの数の子供たちが体験している事だ。その際、この問題に似た場面も起こり得るだろう。そして多くの子供たちは、それには何とか対応できている…と考えられる。

ところが、この様に問題となってしまうと対応できない。過去の体験と問題の状況とを結びつける事ができないからだ。その結果、「どうしたらイイの?」「わかんない」となってしまふ。

そして、最後の難関が答えを書く段階だ。ここまでの2つが判ったとしても、少ない数の子供たちが答えを筋道立てて説明する事ができない。何故なら、論理的に語ったり書いたりする体験が無いからだ。

子供たちも国語の授業で作文は書いている。もっとも、その多くは論理性を求められる内容ではない。運動会や学習発表会、修学旅行など、いわゆる「行事作文」が大半だ。これだと、「思った通りに書いてご覧なさい」という指導がなされる事が多くなり、極端な場合には思いつきを書き連ねる事となる。手紙文や説明文などもあるが、まだまだ作文指導全体の中では少数派と言えよう。

そのため、解答用紙に答えを書く時になって「どう書けばイイの?」「書き方が判らない」となってしまふ。

では、どうするか?

差し当たり、以下の2つの力を意識して指導する必要があると考える。

- A. 書かれている事を大雑把に理解する力
- B. 自分の考えを論理的に判りやすく述べる力

これを具体的に、どの様な授業を行って身に付けさせていくか?

最も改善されなければならないのは国語の授業だろう。これまで多くの国語の実践では、「物語教材を」「場面毎に」「何時間もかけて」読み取らせる事が中心だった。しかも問われるのは、「その時の、ごんの気持ちを考えよう」とか「大造じいさんは、どんな気持ちだったのだろうか」など、登場人物の心情の読み取りばかりだった。

これではダメだ。

今後の実践では、まず説明文を中心にして多種多様な教材を取り上げる必要がある。その際は、

- a. 内容の概略を把握する。
- b. 把握した事を自分の言葉で説明する。
- c. 身近な例で内容を説明する。

…といった活動をさせていく事が重要になるだろう。例として、次頁の教材を扱った実践を紹介する。

この教材で授業をした際、次のような指示を出した。

『『柿山伏』の世界と現代の世界で事情の違う例を挙げます』

これだと、自分たちの生活と作品に書かれている内容を嫌でも比べなくてはならない。



光村図書『国語 六 創造』より

もちろん、そのためには「柿山伏」の概略を把握する事が必要だし、自分の言葉で説明しなくてはならない。

実際、子供たちからは、

『柿山伏』では電化製品が出てないが、今は電化製品がいっぱいある」

『柿山伏』では柿主は弓矢や鉄砲を持っているが、現代は銃刀法違反で逮捕される」

『柿山伏』では喋り方が『～じゃ』とか『～なり』と書いてあり、現代は使わない言葉が使われている」

…などの意見が出た。まだまだ表現的には未熟だが、上記 a や b や c に近づく内容になっていると思う。その点では、必ずしも上記指示がベストとは言わないが、このような指示や発問を続ける事で少しずつ子供たちを鍛える事にはつながると考えられる。

以上、全国統一学力テストの分析から今後目指すべき授業の在り方について簡単に述べてきた。

恥ずかしながら、この様な研究と実践は最近になって始めたばかりである。そのため、量的にも質的にも不十分な状態だ。今後も継続して取り組み、また次の機会に報告したいと考えている。